

- Ann. Surg., 153 : 1029-1032, 1961.
- 14) Newman, B. and Jackson, E. : Spontaneous rupture of the splenic vein during pregnancy. Southan Med. J., 56 : 11-13, 1963.
- 15) Ogilvie, W. H. : Spontaneous rupture of the splenic vein in a case of enlarged liver and spleen. Guy's Hospital Reports, 72 : 219-224, 1922.
- 16) Pyrah, L. N., Stansfield, F. D. and Garland, H. G. : Hemoperitoneum due to spontaneous rupture of the splenic vein. Brit. Med. J., 1 : 810, 1929.

☆NEWS

腎移植時の組織適合性検査のお知らせ

腎移植（生体・屍体）時ドナー選択のための組織適合性検査に必要な血液の採取とその送付方法および histocompatibility testing center の組織化の試みを慶大で行なっており、他施設の検査も引受けているのでその概要を紹介する。

① 慶大で現在施行している histocompatibility testing は原則として lymphocytotoxicity test (HL-A 系) で時に mixed lymphocyte culture を併用する。② lymphocytotoxicity test は NIH tissue typing antisera を用いることにより世界的なレベルで HL-A 系により検討できる特長がある。

具体的な採血方法と送血手順、医者側の行なうこと

① 慶大病院で採血する時、直接患者が来院する時、
 ④ 原則として泌尿器科または放射線科外来にて採血、同時に輸血センターで赤血球抗原を検査する ⑤ ヘパリン添加 20ml 注射器（ノボヘパリンを 10ml 蒸溜水で溶解、0.1~0.2ml 注射器にとり、十分に注射器の管壁を濡らし、そのまま残しておく）にて肘静脈より、溶血・凝血がおこらないよう 20ml (10ml でも可) 採血する。
 ⑥ ただちに注射針をはずし管壁にそって静かに滅菌試験管にうつす ⑦ 滅菌プラスマジェル溶液を血液量の 1/3~1/2 容を無菌的に加え静かに 1~2 回混和する ⑧ 室温で静置 30 分 ⑨ 以下リンパ球の分離操作、ついで lymphocytotoxicity test を行ない判定、記録カードに集計する。

② 慶大病院以外の大学病院、研究所で採血の機会ある時(原則として ① に準ずる)。
 ④ ヘパリン添加 20ml 注射器にて ① と同様に採血する ⑤ 各施設でできるだけ詳しく赤血球抗原の検査が行なわれることが望ましい
 ⑥ ただちに注射針をはずし管壁に沿って静かに滅菌試験管にうつしゴム栓にて密栓する。できれば試験管は硬質性、破損しにくいものが望ましい。⑦ 以下 ④ の送血手順に従う ⑧ 原則として、予定されるドナーとリシピエントは同時期に検査されるのが望ましい。

③ 屍体からの採血 ④ 原則として死後可及的速かに採血する ⑤ 不可能なときには腎摘出時または解剖時に動静脈血から前述の方法に従って採血する ⑥ 無菌的に試験管に入れ前述の方法に準ずる。

④ 送付側の採血後に行なうべき手順 ④ 採血した試験管は可及的速かに氷の入ったアイスボックスに入れ 4°C に保存する (0°C 以下で保存することは現段階では望ましくない) ⑤ 試験管が破損されないよう周囲を充分保護する ⑥ アイスボックス内の氷が解けても水が試験管内に入らないよう工夫する ⑦ アイスボックスを外方より密封した後「天地無用」「左右に振るな」「運搬注意」を記載し、次の事務上の手続きを行なう。

⑤ 送血事務上の手続き、医者側と運送会社との協同行なうこと ④ 採血後アイスボックスに詰め送付できるように手続きしている時に、一方では後に述べるリストに基づき日通航空と電話連絡する ⑥ 輸送は日通で各支店の担当者は後に記す ⑦ 原則として電話連絡を受けると可及的速かに日通航空により血液が集荷される ⑧ 送付後の検査に要する時間等を考慮し、できるだけ前日にその予定のあることを日通航空に連絡し、当日は 9 : 00 A. M. に集荷でき、羽田空港に遅くとも 2 : 00 P. M. に到着するよう手配するのが望ましい。⑨ また 1 日前に慶大病院 03-353-1211・内線 2472・2471 の辻公美あるいは内線 2423・2424 の中村宏に電話連絡する。

輸送の連絡は◎東京地区：日本通運東京空港支店国内貨物係山本主任（東京都大田区羽田空港 2-5-1・03-741-6151 内線 2263・2363）◎札幌地区：日通札幌支店堀川主任（札幌市北 5 条西 1 丁目・0122-24-4750）◎盛岡地区：日通盛岡支店小野崎係長（盛岡市駅前通 9-12・0196-23-4141）◎仙台地区：日通仙台支店大籠係長（仙台市東 5 番 7・0222-21-2121）◎大阪地区：日通大阪支店北川係長（大阪市福島区海老江上 4-12・06-458-8991）◎福岡地区：日通福岡支店福江係長（福岡市博多駅前 2-13-20 号 092-41-2721）◎長崎地区：日通長崎支店大原所長（長崎市大黒町 13-1・0958-26-1181）

血液送付先：東京羽田日通航空国内貨物課気付 東京都新宿区信濃町 35、慶大病院 2 号棟地下放射線研究室 辻公美ゆき

運送経費：原則として集荷代 200 円、航空代 1,500 円、羽田からの運賃 3,000 円、計 5,000（送付側が支払う）

検査費：当分の間無料